

# 下野市立国分寺中学校

## 1 学校課題

研究主題 「主体的に学ぶ生徒の育成」～対話的で深い学びの実現を目指して～

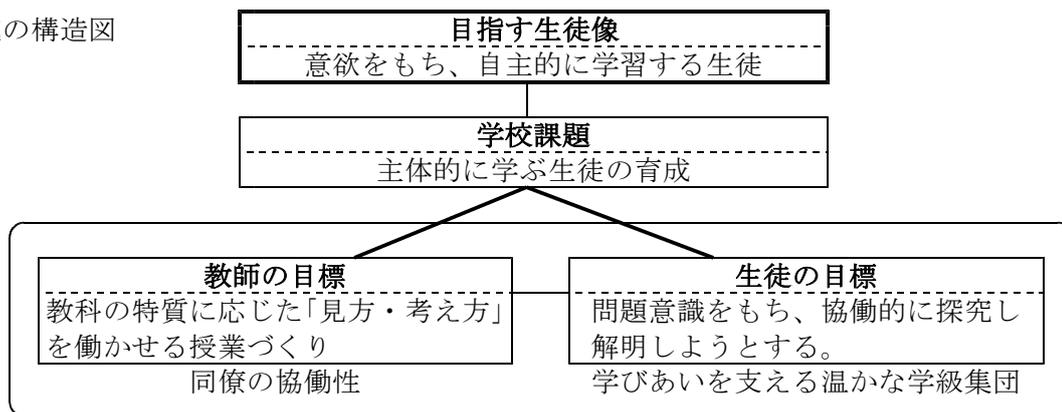
## 2 研究計画

### (1) 研究主題設定の理由

とちぎっ子学習状況調査の生徒質問紙では、「難しい問題にであうとよりやる気が出る」という質問項目に対して肯定的に答える生徒が少ない。困難な問題に対して諦めたり、粘り強く取り組めなかったりする生徒もいる。日々の授業で「なぜ?」「知りたい」「分かるようになりたい」など主体的、協働的に解決に向かうような課題設定の工夫、見通しをもたせる、学び合う場面の設定、振り返り等の授業を実践することが重要である。

本校では継続して「学びの共同体」の理念に基づいた授業実践を重ねているが、生徒の「対話的」な学びの部分を取り返ると、ペア学習やグループ活動を取り入れるに留まっていたり、お互いの意見を言うだけの「会話」になってしまっていたり、答えを教え合う、見せ合う活動になってしまっている現状もある。今一度、生徒も教師も「対話」の価値を再確認し、異なる多様な他者との学び合いを大切に、真の対話を目指さなければならない。そのために今年度は、「対話の質」を高め、生徒一人一人の学びに広がりや深まりが生まれるよう、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業づくりを行い、「対話的で深い学び」の実現を目指し、主体的に学ぶ生徒の育成をねらいとして研究主題を設定した。

### (2) 研究の構造図



### (3) 研究のねらい

- ・ 生徒一人一人の「問い」をもとにした課題設定の工夫
- ・ 多様な他者との学び合いを大切にされた対話場面の設定
- ・ 深い学びの成立のための振り返り  
→ 「学びの共同体」の理念に基づく授業実践を継続し、特に「対話」の部分をよく見直し授業改善を行う。

## 3 研究内容

### (1) 学びを中心とする授業の改善

4月当初、今年度の研究課題についての共通理解と学習観の共有を行った。今年度は、「対話的で深い学び」の実現を目指して、「主体的に学ぶ生徒の姿」に焦点を当てることにした。教科部会では、授業の導入における「課題設定」と「見通し」、終末における「振り返り」の工夫を協議した。また、7月と12月に授業アンケートを実施した。生徒が評価した結果を数値化することで、自分の授業を生徒がどう感じ取っているか考察し、授業改善に生かした。生徒の学びを支えることを意識した授業づくりの必要性があることを共通理解した。

### (2) 授業研究会の充実

コロナ禍で様々な制限のある中、今年度は、3回の授業研究会をもつことができた。

S&Uコラボ授業研究会は、第1回を年度の早い時期に「道徳」で実施した。参観・協議の視点を「道徳的価値についての理解」「自分事として捉えること」「多面的・多角的に考えること」「人

間としての生き方」とし、研究主題に迫った。和井内先生からは、「多面的・多角的に考えるとは」「多面的・多角的に考える学習とは」「豊かな人権感覚とは」などについて改めてご指導いただいた。第2回目は、「主体的に学ぶ生徒の姿」「主体的に学習に取り組む態度の見取り方」に視点を絞り、実施した。田村先生からは、「生徒はどのように学びたいのか」「生徒はどのようなときに対話するのか」「生徒はどのようなときに深く考えるのか」を改めてご提示いただき、授業研究会を通して研究主題について考える機会となった。

さらに、12月に行った自主公開研究会では、「学びの共同体」の授業スタイルを中心になって推進している佐藤先生にお越しいただいた。昨年度は、実施できなかったため、「学びの共同体」について、全職員が共通理解を図る時間となった。本校の現状から、改善のポイントを交えての講話をいただき、「学びの専門家」である教師として改めて授業づくりについて考えることができた。



#### 授業研究会研修内容

月	実施内容 および 授業研究会（授業、協議、講話）を通して
4	学習指導における共通理解
6	S&Uコラボ事業（授業研究会） 3年道徳 ・考える時間を繰り返し、より深い思考を促すのは豊かな心の醸成につながると再認識した。 ・生徒の発言を受けて、価値を深めるタイミングというものを生かせるようになりたい。
10	S&Uコラボ事業（授業研究会） 2年英語 ・設定したゴールに向かって計画的に授業を組み立てていくことの大切さを改めて感じた。 ・思考・判断・表現の評価の見取り方が再確認でき、自分の教科につながった。
12	自主公開研究会（本年度は校内のみで実施） 1年社会 講話「探究と共同の学びの創造ーポストコロナ時代の授業改革」 ・学びたいことは何かを考える姿勢は、どの教科にも通ずる学習姿勢かと思う。 ・ジャンプ課題などグループ活動の中での探求的会話が、生徒のやる気につながると感じた。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 成果

年間を通して、「主体的に学ぶ生徒」を育成することを意識し、様々な実践ができた。

今年度は、年度当初に全職員が同じ立場で意見を交わせる道徳で授業研究会を行ったことで、意識が高められ、大変有意義なものとなった。特に、問い返し、生徒への揺さぶりなどを改めて考えさせられ、研究のねらいにせまることができた。また、普段抱えている課題を共有し、授業や研究会から学んだことを、すぐに取り入れて実践する姿が多くの先生方から見られた。

研究会では、小グループ協議による意見交換が活発にされ、学習指導を進める上での参考点が見つかった。また、研究主題に沿った指導助言や「学びの共同体」の基本理念の講話から、来年度以降につながる見通しをもつことができた。

### (2) 課題

実践についてのアンケート結果より、研究のねらいの一つである「生徒一人一人の『問い』をもとにした課題設定の工夫」については、「『問い』をもたせること」「単元指導計画の設定」「習熟度の思考に合わせた設定作り」など課題が挙げられた。また、今年度、特に見直しをはかった「対話」に関しては、グループ活動の中で、発表的会話ではなく探究的会話を作り出す授業作りの必要性を再認識した。教材、資料、タイミングなど、生徒のやる気を引き出す様々な要素をひとつひとつ作り出せるよう、日々の教材研究や研修を重ねていきたい。

コロナ禍で、日々の授業にも様々な制限が今年度も続いたが、来年度は、2年間実施できなかった年間でグループを組んでの一人一授業研究会を実施していきたい。研究会をもつにあたり、準備段階からより多くの職員で関わること、学校全体の授業スキル向上にもつなげたい。

今年度は多くの先生方から、講話等を聴くことができた。また、職員も参加した各研修会の中で、情報を得ている。講話の中には、様々な視点からのお話があるので、本校として目指す方向をはっきりとさせ、ぶれない指導につなげる必要があると感じた。来年度、全職員が共通理解のもとスタートできるよう、今年度の実践から得られた新たな課題を職員全体で共有し、来年度の研究課題をさらに吟味し、学校全体で取り組んでいきたい。